

第69回 EVENING THEATER



記憶に残る土木の映画人

—堤哲朗監督特集—

地熱に挑む・開発・次世代のアーチをかける

【写真出典】

堤哲朗：スクリーンの向こう側へ特集映像に見る土木、国づくりと研修、81号、1989年9月号、pp.22-26

2012年12月5日(水) 開場 18:00 開演 18:30

土木学会 講堂 (JR中央線・地下鉄丸の内線・南北線「四ツ谷」駅下車徒歩5分)

HPにて参加申込み受付

<http://committees.jsce.or.jp/avc/>

問合せ先：土木学会土木学会図書館 土木技術映像委員会担当

イブニングシアターは、CPDプログラム(2単位)です。会員証でCPDポイントの自動登録が可能ですのでご参加の際にご持参ください。

上映作品

地熱に挑む

新黒部第3発電所建設工事のうち導水路工事記録

制作：1963年 上映時間：23分 企画：大成建設 制作：日本映画新社

関西電力新黒部第3発電所（富山県宇奈月）における大成建設の工事記録。同社の担当工区は日本有数の高熱温泉地帯にあたり、摂氏140度を超える岩盤と吹き出す熱湯に立ち向かう難工事となった。水をかぶるドリルマン、息をのむ耐高熱火薬の装填。汗みどろで貫通させた人と機械の苦闘の記録である。

「大成建設の数百本に及ぶこれまでの映画の、ナンバーワンと言える作品です」（堤監督コメント）



開 発

制作：1969年 上映時間：15分 監修：大成建設 制作：日本映画新社

アスファルト遮水式ロックフィルダムである大津岐ダムの技術の解説映像。従来のロックフィルダムは粘土質やコンクリートのコアを設けて遮水を行ったが、貯水側斜面に頑丈なアスファルト遮水壁を設ける新技術が登場した。独特の機械により良質のアスファルトの層を重ねて極めて平滑な遮水面を造っている。

「大津岐のアスファルト遮水は日本では先駆け。この当時は一作ごとに新しい技術が採用され、その変化が忠実に反映されているので、映画をたどるだけでも技術の変遷が読み取れます」（堤監督コメント）



次世代のアーチをかける

第2東名富士川橋

制作：2005年 上映時間：20分 監修：大成建設 制作：日映企画

2005年当時建設中の第二東名高速道路の一部で、静岡県の富士川に架けられた富士川橋の建設記録である。この橋は、国内最大スパン（265m）の鋼・コンクリート複合アーチ橋で、その雄大な構成美とともに施工方法にも大きな特色がある。富士川と言う国内屈指の急流河川の屈曲部に位置するため、アーチ形式を採用したが、環境を損なわず周囲の風景に溶け込んだデザインは素晴らしい。高度な建設技術を駆使した鋼・コンクリート複合アーチ橋の施工を、アニメーションを駆使してコンパクトに紹介しており、学生・一般社会人にも容易に理解できると思われる。地域住民との交流のシーンもあり、地に足の着いた建設工事という印象を抱かせてくれた。

